

**取手市立小中学校における
生成 AI 利活用に関するガイドライン 【Ver. 1.0】**

取手市教育委員会 指導課

令和8年9月18日

○ 目次

1. はじめに.....	3
1.1 策定の趣旨.....	3
1.2 取手市の教育ビジョン.....	3
2. 生成 AI について	4
2.1 仕組みと特徴.....	4
2.2 利活用のイメージ.....	5
3. 利活用における 5 つの基本方針.....	5
4. 教職員による校務での利活用	6
4.1 基本的な考え方（学びの専門職としての活用）.....	6
4.2 具体的な利活用場面（推進例）	6
4.3 利活用のルールと市推奨サービスの一覧.....	7
5. 児童生徒による学習活動での利活用	8
5.1 段階的な学び（「知る・触れる・使う」の 3 ステップ）	8
5.2 適切な活用の場面	10
5.3 不適切な活用の場面	10
5.4 児童生徒が利用可能な生成 AI サービス一覧	11
6. 家庭との連携.....	11
付録：セルフチェックシート	12
参考	13

1. はじめに

1.1 策定の趣旨

近年、急速に進化し社会に普及している生成 AI は、適切に活用することで教職員の校務効率化や、児童生徒の「個別最適な学び」「協働的な学び」を支える有用な道具となり得ます。本市においても、これからの AI 時代を生きる子どもたちがテクノロジーをツールとして使いこなし、一人一人が才能を開花させ、社会の様々な課題に主体的に対応できる力を育むことは非常に重要であると考えます。

本ガイドラインは、**文部科学省のガイドライン（R6.12.26）**に基づき、本市の学校現場において生成 AI と適切に向き合い、安全かつ効果的に利活用するための基本的な指針を示すものです。策定にあたっては、以下の考え方を重視しています。

- 教育目的の達成を第一とする**：生成 AI の利活用は、学習指導要領に示される資質・能力の育成や教育活動の目的達成に資するものでなければなりません。単に「生成 AI を使うこと」自体が目的にならないよう、教育的効果を十分に吟味することが求められます。
- 人間中心の原則と責任**：生成 AI の出力はあくまで「参考の一つ」であり、常に最適解とは限りません。教職員には一定の AI リテラシーを身に付けることが求められ、リスクや懸念を踏まえた上で、最終的な判断と成果物に対して人間が責任をもつという基本姿勢を徹底します。
- 発達段階に応じた慎重かつ積極的な導入**：特に小学校段階においては、児童の発達段階を踏まえた慎重な見極めが必要です。情報モラル教育や教師による適切な指導を通じて、利便性とリスクの両面を正しく理解し、**情報の真偽を確かめる（ファクトチェック）**などの「賢い付き合い方」を段階的に学ぶ機会を提供します。
- 教職員の働き方改革への寄与**：校務において生成 AI を積極的に利活用することで、教職員の事務負担を軽減し、教育の質の向上や、児童生徒一人一人と向き合う時間の創出につなげていくことを目指します。

なお、本ガイドラインは固定的なものではなく、**今後の技術の進展や学校現場での実践状況**、さらには国の指針の改訂等を踏まえ、適宜見直しを行っていくものとします。

1.2 取手市の教育ビジョン

取手市では、第3次取手市教育大綱が目指す「未来を創り出す『とりでの子』」の育成に向け、生成 AI を子どもたちの可能性を広げる大切な道具と捉えています。変わりゆく時代をたくましく生き抜くためには、身近な存在となった生成 AI を賢く使いこなすだけでなく、膨大な情

報から本質を見極め、自ら問いを立てていく資質・能力が欠かせません。私たちは、生成 AI を「答えを出すツール」ではなく、思考を深めるための「**学びのパートナー**」として積極的に活用していきます。AI の特性を正しく理解しながらも、人間にしかできない創造性や感性を磨き、取手の地から世界、そして未来を切り拓いていく人財を、家庭・地域と共に一丸となって育ててまいります。

2. 生成 AI について

2.1 仕組みと特徴

(1) 生成 AI とは

生成 AI (Generative AI) とは、従来の AI が「与えられたデータから正解を探す」ものであったのに対し、大量のデータを学習した結果に基づき、文章、画像、動画、音楽、プログラムなどの新しいコンテンツを自ら作り出す（生成する）ことができる AI の総称です。2022 年 11 月に ChatGPT が公開されて以降、驚異的な速度で普及しており、現在では検索エンジンや学習支援ソフトなど、身近なツールにも組み込まれ始めています。

(2) 生成の仕組み（言葉の予測とプロンプト）

生成 AI は、インターネット上にある膨大な文章や画像データをあらかじめ読み込み、「この言葉の次には、どんな言葉が続く可能性が高いか」という言葉同士のつながりのパターンを膨大に記憶しています。

○プロンプトによる対話：利用者が「プロンプト（指示文）」を入力すると、AI は記憶したパターンをもとに、次に続く「最もそれらしい言葉」を確率的に予測して一文字ずつ文章をつなぎ合わせ、回答を作成します。

○マルチモーダル化：最近の生成 AI は文章だけでなく、画像や音声、動画など異なる種類の情報をまとめて扱える（マルチモーダル）ようになっており、人間の反応と遜色ないスピードでの応答が可能です。

(3) 主な特徴と留意すべき性質

生成 AI を適切に使いこなすためには、以下のような技術的特性を理解しておく必要があります。

○ハルシネーション（もっともらしい嘘）：生成 AI は「正解」を探しているのではなく、確率的に「もっともらしい言葉」をつなげているだけであるため、事実とは異なる情報を、あたかも正しいかのように出力することがあります。そのため、常に内容の真偽を確かめること（ファクトチェック）が不可欠です。

- バイアス（偏り）：学習データに偏りがある場合、差別的・不公平な内容や特定の政治的信念に基づいた回答を出力する可能性があります。
- 再学習のリスク：プロンプトに入力した情報は AI のさらなる学習に利用される可能性があり、意図せず個人情報や機密情報が第三者に流出する危険性があります。
- 検索拡張生成（RAG）：最近では、特定のデータベースを検索し、その結果を考慮して回答を生成することで、誤った回答を抑制する技術（RAG）なども進展しています。

2.2 利活用のイメージ

生成 AI は、従来の情報を探すための「検索ツール」とは異なり、対話を通じてアイデアを広げたり、思考を整理したりするための「優秀な秘書」や「相談相手（壁打ち相手）」として活用することで、その真価を発揮します。AI からより精度の高い回答を引き出すためには、指示文（プロンプト）において、AI に演じさせる「役割」、利用する「目的」、出力の形式などの「条件」を具体的に与えることが重要です。

取手市では、生成 AI を単に「答えを教えてくれるツール」として利用するのではなく、児童生徒が自らの考えを深め、自分だけでは気づけなかった新しい視点を発見するための「**学びのパートナー**」として主体的に活用することを推奨します。AI が出力するものはあくまで一つの「意見」や「たたき台」であることを正しく理解し、最終的には人間が判断し、自らの手で成果物を完成させる姿勢を大切にします。

3. 利活用における 5 つの基本方針

本市では、国（文部科学省）の指針に基づき、学校現場における安全かつ適切な生成 AI の利活用を実現するため、以下の 5 つの基本方針を定めます。

1. **安全性を考慮した適正利用**：各サービスの利用規約（年齢制限、保護者同意等）を厳守します。
2. **情報セキュリティの確保**：再学習させない設定（オプトアウト）が可能な環境下での利用を推奨します。
3. **個人情報・著作権の保護**：氏名や成績などの個人情報は絶対に入力しません。生成物の公開には著作権上の留意が必要です。
4. **公平性の確保**：AI が出力する回答を鵜呑みにせず、必ず人間によるファクトチェック（真偽確認）を行います。
5. **透明性の確保と説明責任**：利用目的を明示し、引用した場合はその旨を記載します。

4. 教職員による校務での利活用

4.1 基本的な考え方（学びの専門職としての活用）

教育は、教師と児童生徒との人格的な触れ合いを通じて行われるものであり、適切な指導計画や学習環境の設定、丁寧な見取りと支援といった、学びの専門職としての教師の役割は、AI時代においてより重要になります。

教職員が生成 AI を校務に積極的に利活用することは、事務負担の軽減（働き方改革）につながるだけでなく、創出された時間を児童生徒と向き合う時間や教材研究の質向上に充て、教育活動をより高度化させるために極めて有効です。**利活用にあたっては、生成 AI を「人間の能力を補助・拡張する道具」と捉え、その出力結果はあくまで「たたき台」や「参考情報」の一つであることを認識する必要があります。最終的な判断は教職員自らがを行い、その成果物に責任をもつという「人間中心の原則」を徹底します。**

4.2 具体的な利活用場面（推進例）

校務における利活用は、一度の対話で完璧な回答を求めず、複数回のやり取り（プロンプトの改善）を通じて精度を高めていくことがポイントです。

○ 児童生徒の指導に関わる業務支援

- **授業準備**：教材のたたき台作成、テスト問題の素案作成、授業での発問に対する生徒の回答シミュレーション。
- **学習支援**：児童生徒の振り返り内容や感想の集約・分析、個々のニーズに合わせた練習問題の作成。
- **部活動・生活指導**：過去のデータに基づく練習メニュー案の作成、アンケート調査の設問案作成。

○ 学校運営に関わる業務支援

- **情報発信**：学校だより、保健だより等の各種お便りや、学校ホームページ掲載文の素案作成・校閲（誤字脱字チェック）。
- **事務・管理**：時間割や授業時数案の作成、会議・研修会等の記録（要約・議事録案）の作成。

○ 外部対応・その他の支援

- **連絡調整**：保護者会や面談等の日程調整、外部向け講演会の挨拶文や謝辞の作成。
- **多言語対応**：外国人保護者向け通知の翻訳、日本語指導が必要な児童生徒とのコミュニケーション補助。

4.3 利活用のルールと市推奨サービスの一覧

校務や教育活動において生成 AI を利活用する際は、情報セキュリティと個人情報保護を担保するため、個人用のプライベートアカウントではなく、市または県から付与されたアカウントを用いて、教育委員会が安全性を確認した以下のサービスを利活用することを徹底します。

【取手市小中学校における利用可能な生成 AI サービス一覧（教職員）】

生成 AI サービス名 【利用可能アカウント】	主な特徴・用途	備考（セキュリティ及び留意事項）
Microsoft Copilot 【市付与アカウント】	・ 文章の作成、校正、要約 ・ 校務用のデータ処理、プログラミング ・ 画像生成やアイデア出しの壁打ち	商用データ保護（教育機関向けセキュリティ）が適用されているため、入力されたプロンプトやデータは AI の再学習に利用されず、外部への情報漏洩を防ぎます。
Canva 教育版 【市付与アカウント】 【県付与アカウント】 （どちらでも利用可）	・ 授業用スライドや教材プリントの作成 ・ ポスター、お便り、掲示物のデザイン ・ AI による画像、文章、動画の生成	教育向けに安全なフィルタリングが施されています。児童生徒の創造性・表現力を高める学習活動でも、教員のクラス管理下で安全に利用可能です。
Google Gemini 【県付与アカウント】	・ 高度な文章生成、多言語翻訳 ・ 指導案やテスト問題のたたき台作成 ・ 複雑な資料の要約、分析	県から付与されたアカウントでログインして利用します。情報漏洩を防ぐため、ログイン状態を必ず確認し、データの再学習に利用されない設定（オプトアウト等）のもとで利用してください。
Gemini Notebook （旧 NotebookLM） 【県付与アカウント】	・ アップロードした特定資料（PDF 等）の分析 ・ 学校の要覧や過去の資料に基づく Q&A ・ 資料を基にしたクイズや確認問題の作成	ユーザーがアップロードした資料（ソース）のみを基に回答を生成するため、一般的な AI と比べて「もっともらしい嘘（ハルシネーション）」が非常に少ないのが最大の特徴です。

※各生成 AI サービスは日々利用規約や仕様が変更されるため、最新の利用環境やフィルタリングによる制限状況については、取手市教育委員会の指示に随時従ってください。

※市内教職員が利用可能な生成 AI サービスは今後、改定される可能性があります。

【校務利活用のルール】安全な利活用のため、以下の事項を厳守します。

1. 機密情報・個人情報の入力禁止

- 成績情報、個別の指導記録、家庭状況などの重要性の高い情報は、プロンプトに絶対に入力してはいけません。

2. 市付与アカウント及び県付与アカウントの利用

- 教育委員会が許可していない私用アカウントの利用は禁止します。

3. 著作権への配慮と公開時の確認

- 授業の過程で利用する場合は、著作権法第 35 条により許諾なく利用可能ですが、学校ホームページへの掲載や学校だより等の配布、外部コンクールへの提出は「授業目的」の範囲外となる可能性があります。
- 生成物を外部に公開・配布する際は、インターネット検索等で既存の著作物との類似性がないか、必ずファクトチェックを行います。

4. 公平性とバイアスの認識

- AI の回答には、学習データに基づく偏見（バイアス）が含まれる可能性があることを意識し、不当な差別や不公平が生じないように、出力内容を採用するかどうかは常に判断します。

5. 児童生徒による学習活動での利活用

5.1 段階的な学び（「知る・触れる・使う」の 3 ステップ）

本市では、児童生徒の発達段階や情報活用能力の育成状況に応じ、生成 AI を段階的かつ安全に学びに取り入れるため、

「知る（ステップ 1）」、「触れる（ステップ 2）」、「使う（ステップ 3）」

の 3 ステップを設定し、体系的な指導を展開します。

〔ステップ 1: 知る〕（全学年・特に小学校段階から）

▼ AI の仕組みや特徴、もっともらしい嘘（ハルシネーション）のリスクを「正しく知る」

〔ステップ 2: 触れる〕（小学校高学年～）

▼ Canva や TerraTalk 等、安全な指定ツールで AI との対話や創作を「安全に触れる」

〔ステップ 3: 使う〕（中学校段階・中 2 以上は Copilot 等）

▼ 探究や表現の「学びのパートナー（壁打ち）」として AI を日常的に「賢く使う」

■ ステップ 1:生成 AI を「知る」【理解と情報モラル】

1. **ねらい:** 生成 AI の基本的な仕組みを学び、利便性とリスク(ハルシネーションや個人情報流出のリスク等)を正しく理解し、客観的に捉える態度を養います。
2. **対象・推奨ツール:** 全学年(特に小学校低・中学年から段階的に導入)
発達段階(低・高・中学)に応じた市作成ガイド(別紙)の活用
3. **具体的な学習活動例:**
 - **AI の限界に気づく授業(ファクトチェック体験):** あえて嘘や誤りを含む生成 AI の出力を教材として提示し、児童生徒に本や教科書を使って間違いを指摘させることで、「AI は間違えることがある」という特性を体感的に学びます。
 - **情報モラル・ルールの学習:** 「AI に友達や自分の名前、住所、写真を絶対に入力しない」といった個人情報保護の基本や、「他人の作ったものを尊重する」という著作権の基礎について考えます。
 - **教師による対話の提示(小学校低・中学年向け):** 児童が直接操作する前に、教師がプロンプト(指示文)を入力して AI と対話する様子をデモンストレーションし、生成 AI への冷静な態度やリテラシーを養います。

■ ステップ 2:生成 AI に「触れる」【体験と基本的な対話】

1. **ねらい:** 安全な指定環境のもと、実際に自分の手で生成 AI に触れ、AI と対話しながら成果物(画像・文章・音声等)を生成・編集する基礎的なスキル(プロンプトの工夫など)を体験します。
2. **対象・推奨ツール:**
 - ① **Canva 教育版** 全学年:教員の管理クラス下での共同編集やデザイン創作に活用
 - ② **TerraTalk** 小学5年生以上:英語授業内・家庭学習で個別最適な対話練習に活用
3. **具体的な学習活動例:**
 - ① **AI を用いたデザイン・表現:** Canva 教育版の AI 機能を活用し、授業のスライド、ポスター、紹介カード等の背景画像やデザインの作成を補助させ、表現の幅を広げます。
 - ② **AI を相手にした外国語対話:** 英語学習アプリ「TerraTalk」を相手に、自分のレベルに合わせた英会話練習や、発音のチェック、より自然な表現への添削(自己調整学習)を体験します。
 - ③ **プロンプト(指示文)の試行:** 指示文の「役割・目的・条件」の与え方によって、AI の返答の質がどのように変わるかを試行錯誤しながら、言葉で具体的に伝える力を高めます。

■ ステップ 3:生成 AI を「使う」【探究と創造・日常使い】

1. **ねらい**： 生成 AI を、単に答えを教えてくれるツールではなく、自分の思考を深め、多角的な視野を得るための「学びのパートナー」として日常的に使いこなします。
2. **対象・推奨ツール**： 中学校段階(中学 2 年生以上は Microsoft Copilot の利用も可能)
3. **具体的な学習活動例**：
 - ① **「壁打ち」としての活用**： 総合的な探究の時間などにおいて、自分たちの意見・アイデアに対して、AI に「反対の立場から反論して」「別の視点からアドバイスをちょうだい」と問いかけ、議論に深みをもたせます。
 - ② **文章の添削と推敲(プロセスの可視化)**： 自分で書いた作文やレポートの素案を AI に読み込ませ、アドバイスを受けながら何度も自分の手で推敲を重ね、より良い自分らしい表現へと磨き上げます。
 - ③ **引用と出典記載の徹底**： AI の出力を参考にした場合は、利用した AI サービス名、日付、プロンプト等を参考文献と同様に明記(出典を記載)させることで、情報の透明性と説明責任の意識を徹底します。

5.2 適切な活用の場面

- 「壁打ち」としての活用： グループ活動の途中段階などで、自分たちの考えに対する反論や、足りない視点を AI から得て、一定の議論をさらに深める。
- 言語学習： AI を英会話の相手として活用したり、自分で作った英文を AI に添削させて表現を改善したりする「自己調整学習」を促進する。
- 情報活用能力の育成： あえて嘘や誤りを含む生成 AI の出力を教材として提示し、児童生徒にその間違いを指摘させてファクトチェックの方法を学ぶ。
- 探究・表現活動の支援： プログラミングの授業におけるコードの作成補助や、自分が作った文章の添削・推敲に活用し、最終的に自分らしい表現に整える。

5.3 不適切な活用の場面

- 情報モラル指導が不十分な段階での自由使用： AI 自体の性質やメリット・デメリットを十分に学習していない段階で安易に利用すること。
- 課題の「そのまま提出」： 各種コンクールの作品、読書感想文、レポート等において、生成 AI の出力をほぼそのまま自己の成果物として応募・提出すること（本人の学びにならない不正行為）。
- 感性や独創性を育むべき場面での安易な利用： 詩や俳句の創作、音楽・美術の表現活動、文学教材の初発の感想を求める場面で安易に利用すること。
- 評価や指導の代替： 教師が専門性を発揮して、人間的な触れ合いの中で行うべき教育指導や学習評価を、教職員が判断せず生成 AI の出力のみに頼って実施すること。

5.4 児童生徒が利用可能な生成 AI サービス一覧

児童生徒が授業や家庭学習等で利用できる生成 AI サービスは、**安全性が確認され、かつ発達段階（年齢制限）や利用規約に適合した以下のサービス**とします。

【児童生徒用：利用可能な生成 AI サービス一覧】

サービス名 【対象学年・利用条件】	主な学習活用場面	備考（セキュリティ及び 安全指導上の留意事項）
Canva 教育版 【全学年（小 1～中 3）】 ※教員から管理クラスへ招待して利用	・スライド、ポスターのデザイン作成 ・AI による画像生成・編集、テキスト作成の補助	・教育用に高度なフィルタリングが施されているため、児童生徒が安心して利用できます。 ・共同編集機能を使い、グループワークでの協働学習にも活用可能です。
英語学習アプリ TerraTalk 【小学 5 年生以上】	・AI を相手にした英会話（対話・スピーキング）練習 ・個々の習熟度に合わせた発音・表現の添削	・英語授業内でのアウトプット練習や、個別最適な「話すこと」の家庭学習教材として機能します。
Microsoft Copilot 【中学 2 年生以上（市アカウントで利用可能）】	・探究学習における情報収集・整理、壁打ち（アイデア出し） ・作文やレポート作成時の推敲、構成のアドバイス	・中学 2 年生以上の年齢制限（13 歳以上）に則り利用します。 ・市アカウントによる利用に限り、入力データは再学習に使用されず、セキュリティが担保されます。

※児童生徒が利用可能な生成 AI サービスは今後、改定される可能性があります。

6. 家庭との連携

- 保護者の理解と協力： 児童生徒の授業等での生成 AI 利用にあたっては、学校から利用目的やサービスの規約（年齢制限等）について丁寧な情報提供を行い、事前に保護者の理解を得るものとします。同意書作成に当たっては別紙「学習活動における生成 AI の利活用に関するご理解とご協力をお願い」を参考に、各学校で作成、配付する。
- 家庭での安全な利用と見守り： 児童生徒が学校外や家庭学習で生成 AI を利活用する可能性を念頭に、個人情報の入力制限、年齢制限の遵守、宿題等での安易な依存防止（学びのプロセスの重視）について、保護者リーフレット等を通じて周知し、協力を依頼する。

付録：セルフチェックシート

【教職員用チェック項目（抜粋）】

- ☐ ルール遵守：教育委員会の方針（生成 AI 利活用留意事項・学校情報セキュリティポリシー等）に基づき利用しているか。
- ☐ 端末・アカウント：私用アカウントや、セキュリティ管理者の許可を得ていない私用端末を使用していないか。
- ☐ 利用規約：生成 AI サービスの提供者が定める最新の利用規約（商用利用や年齢制限等）を確認・遵守しているか。
- ☐ 人間中心の判断：ハルシネーションやバイアスの特徴を理解し、AI の出力をそのまま採用せず、自分で内容の適切性を判断したか。
- ☐ 機密情報：プロンプトに成績情報や個別の指導記録などの重要情報を入力していないか。
- ☐ 個人情報：プロンプトに児童生徒や保護者の氏名、生年月日、写真などの個人情報を入力していないか（オプトアウト等の学習に利用されない設定が担保されている場合を除く）。
- ☐ 著作権保護：市販教材や他者の著作物のアップロードなど、著作権の侵害につながる使い方をしていないか（特に授業目的外でホームページや学校だより等に掲載する場合の確認）。

【児童生徒用チェック項目（学習活動時確認）】

- ☐ 個人情報の約束：AI に入力する質問（プロンプト）に、自分や友達、家族の名前・住所・電話番号・写真などを入れていないか。
- ☐ ファクトチェック（本当かな？）：AI が言ったことをすべて正しいと信じ込まず、本や教科書、信頼できる Web サイトなどで「本当かどうか」を確かめたか。
- ☐ 自分の考え：AI が作った文章や画像をそのままコピーして「自分が作ったもの」として宿題やレポートとして提出しようとしていないか。
- ☐ ルールとマナー：使うサービスのルール（対象年齢など）を守って、友達が傷つくような言葉や、いじわるな質問を入力していないか。
- ☐ 出典の記載（引用）：課題や発表スライドの中に AI の回答を参考にした部分がある場合、「使った AI サービスの名前」「日付」「プロンプト（質問）」をきちんと書いたか。

参考

- ◆ 初等中等教育段階における生成 A I の利活用に関するガイドライン（令和 6 年 12 月 26 日付 Ver. 2.0）
 - ・【本体】（https://www.mext.go.jp/content/20241226-mxt_shuukyo02-000030823_001.pdf）
 - ・【概要 1 枚】（https://www.mext.go.jp/content/20241226-mxt_shuukyo02-000030823_002.pdf）
 - ・【概要資料】（https://www.mext.go.jp/content/20241226-mxt_shuukyo02-000030823_003.pdf）
- ◆ 文化庁ホームページ「A I と著作権について」
（<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/aiandcopyright.html>）
 - ・ A I と著作権に関する考え方について（令和 6 年 3 月 15 日）
（https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/chosakuken/pdf/94037901_01.pdf）
 - ・文化審議会著作権分科会法制度小委員会 A I と著作権に関する考え方について【概要】（令和 6 年 4 月）
（https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/chosakuken/pdf/94057901_01.pdf）
 - ・ A I と著作権に関するチェックリスト&ガイダンス（令和 6 年 7 月 31 日）
（https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/pdf/94097701_01.pdf）